

第2回防災リレー講座 アンケート集計結果

普通を知って、異常を知る：気象系災害への備え
ー日常の観測が命を守るチカラになるー

実施日：2025年9月3日

SEEDS Asiaまとめ

登録者・参加者の概要

	事前：当日	参加方法 オンライン：会場	人数	コメント
登録者	事前申し込み	オンライン	11	事前申し込みの9割がGoogle Formで申し込み
		会場	40	
		計	51	

	事前：当日	参加方法 オンライン：会場	人数	コメント
参加者	当日参加者	会場	11	
	登録済参加者	オンライン	10	約 3 割が申し込みをしたが欠席
		会場	28	一割弱、申し込みをしたが欠席
	参加者計		49	

※アンケート回答者36名/参加者49名:回答率73.4%

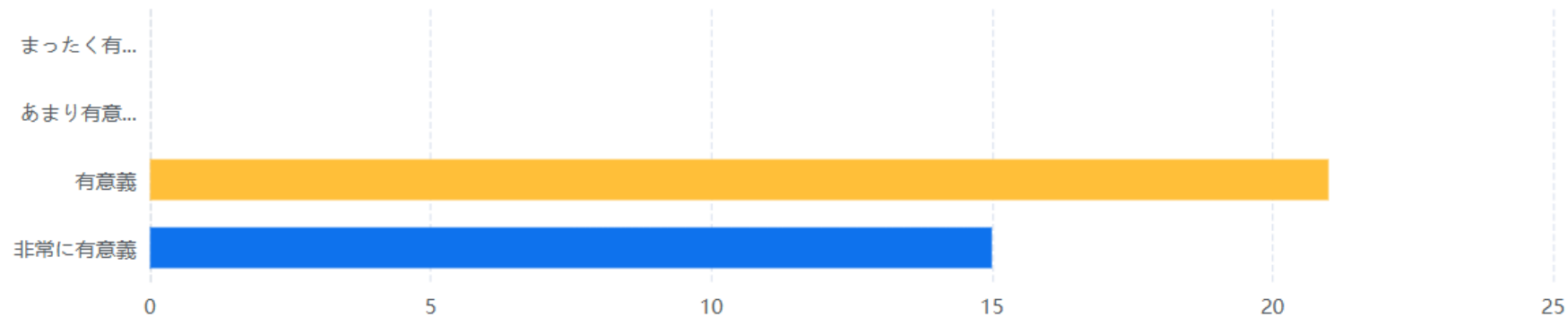
回答方法：二次元コード（35名）+アンケート用紙（1名）

質問要約

1. 本日の講座は、有意義な内容だと感じましたか？（単一選択） *



(36/36) 100% が回答しました

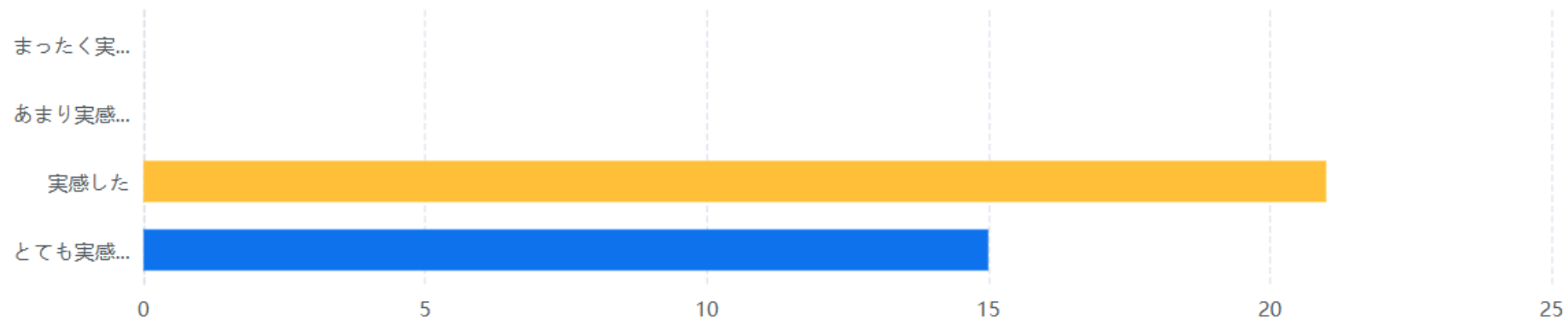


オプション	回答 𐄇
非常に有意義	15/36 (42%)
有意義	21/36 (58%)
あまり有意義ではない	0/36 (0%)
まったく有意義ではない	0/36 (0%)

2. 講座を通じて、子どもたちの安全を支えるために、学校や地域での気象や水位の記録の必要性を感じましたか (単一選択) *



(36/36) 100% が回答しました

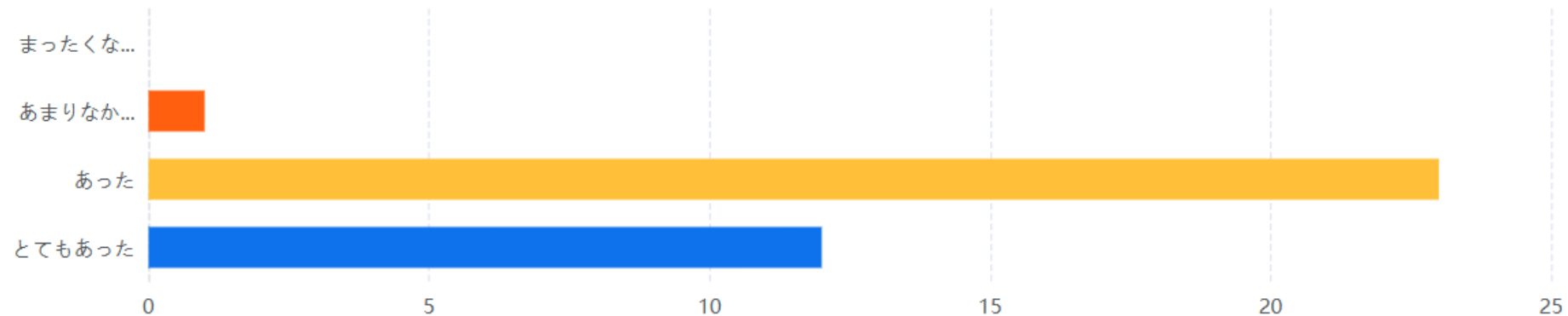


オプション	回答
とても実感した	15/36 (42%)
実感した	21/36 (58%)
あまり実感しなかった	0/36 (0%)
まったく実感しなかった	0/36 (0%)

3. 講座を通じて、子どもの安心・安全に関する知識が深まったり、新しい気づきや発見がありましたか？（単一選択） *



(36/36) 100% が回答しました

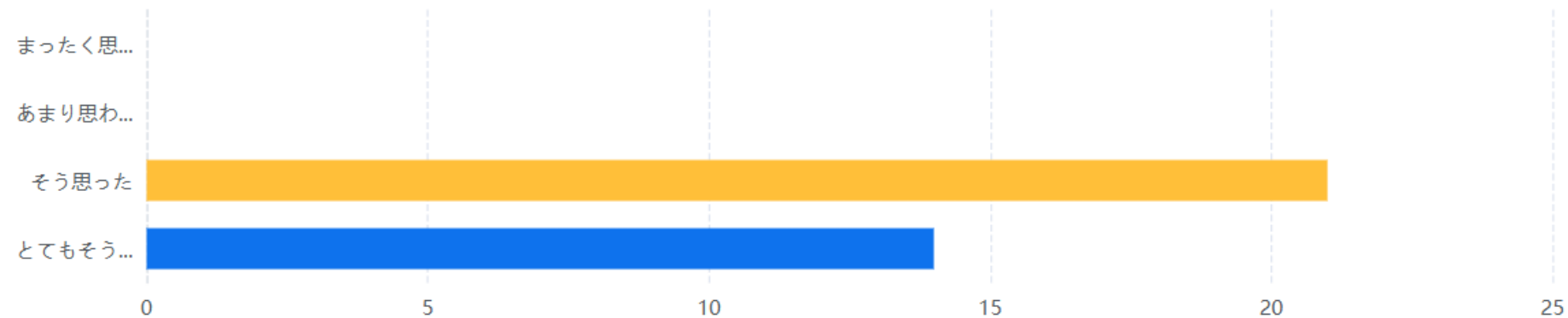


オプション	回答 𐄂
とてもあった	12/36 (33%)
あった	23/36 (64%)
あまりなかった	1/36 (3%)
まったくなかった	0/36 (0%)

4. 講座で得た内容を踏まえ、自分の生活や地域でできることを実践したいと思いましたか？（単一選択）

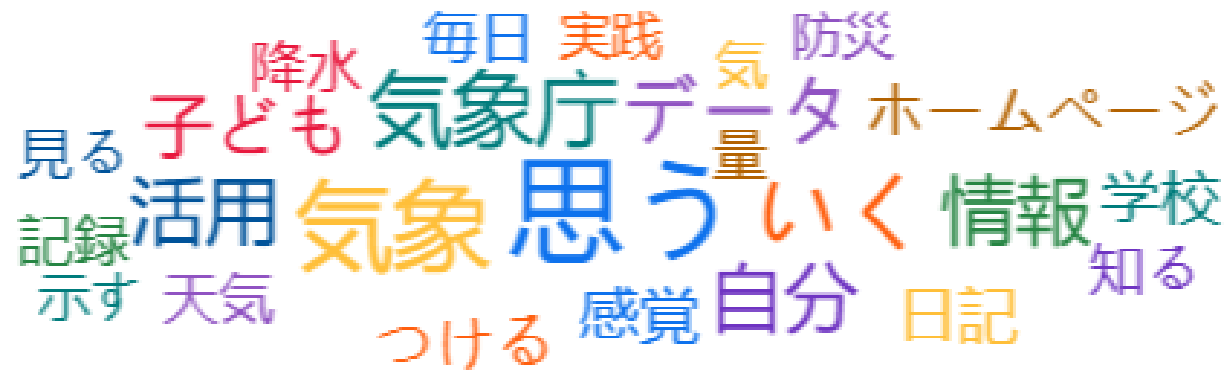


(35/36) 97% が回答しました



オプション	回答 𐄂
とてもそう思った	14/35 (40%)
そう思った	21/35 (60%)
あまり思わなかった	0/35 (0%)
まったく思わなかった	0/35 (0%)

上記の質問で、「とてもそう思った」「そう思った」方にお尋ねします。例えばどのようなことを実践したい、あるいは継続したいと思いましたか。



A word cloud of Japanese text. The most prominent words are '気象' (weather) in orange, '思う' (think) in blue, and 'データ' (data) in purple. Other visible words include '子ども' (children) in red, '活用' (utilization) in blue, '情報' (information) in green, '学校' (school) in green, '日記' (diary) in orange, '自分' (self) in purple, '感覚' (sensation) in blue, 'つける' (attach) in orange, '天気' (weather) in purple, '記録' (record) in green, '見る' (look) in blue, '降水' (precipitation) in red, '毎日' (every day) in blue, '実践' (practice) in orange, '防災' (disaster prevention) in purple, 'ホームページ' (homepage) in orange, 'いく' (go) in orange, '知る' (know) in purple, and '示す' (show) in green.

実践したいこと：① 気象庁ホームページ・データ活用

- 気象庁のホームページを活用し、毎月の避難訓練のときに動画を見せるなどしたいと思う。感覚を研ぎ澄ますことを気にかけて生活していく。
- 気象庁ホームページの有効活用
- 気象という観点での防災・減災の取り組みをしたことがなかったので自分の気づきになった。また、主観（経験則）や客観（データ）がとても重要でそこを活用できるだけでも防災・減災に広く活用できると感じました。まずは、自分自身が気象庁のホームページを確認して、子どもたちに伝えることをまとめていきたい。さらに、子どもたちの地域のことを知る機会を作っていきたいとも感じた。外部の団体とも協働していきたい。
- 気象庁HP等で、身近なところの「普通」の状態をしっかりと知るようにしようと思った。
- 気象庁のホームページを見ること。簡単な気象日記をつけてみることをしたいと思いました。
- 生徒と一緒に気象庁のデータにアクセスするなど、自分で情報を入手できるようにしていきたいと感じた。
- 学校現場で、継続して気象について話す機会をもって、子どもたちの気象に関する主観を育てる取り組みをしたいと思います。また、気象庁データの活用は、理科以外でも社会科等でも活用できそうですので、ぜひとも実践したいと思います。
- 気象庁のホームページの情報をもっと活用したい。また自分自身で気象日記をつけたいとおもいました。"
- 気象庁のデータを情報源として活用したい
- ウェザーニュースアプリなどで簡単に情報を見ていましたが、気象庁のホームページも見に行き、より詳しい情報を得たいと思いました。

実践したいこと：気象日記・観測を通じた普通を知って異常を知るという意識の醸成

- 校務日誌に毎日天気を記入していますが、毎日の記録することの大切さがわかりました。天気日記も面白そうのでやってみたいです。
- 記録することはなかなか難しいが、まずは気象情報をしっかり仕入れたいと思った。そして学びたいと思った。
- 気温など、わかりやすいものから毎日記録していくと、自分の肌感覚とデータでの裏づけで、学校独自の気象予報なんかもできたら楽しそうだなと思いました。学校に気温とwgptを掲示板に毎日記録して示していく。自覚を促したい。
- 鳥羽市の平年値をハンドブックなどに示して職員で共有したい自分自身が気象日記をつけ、児童・生徒らに実践させたい、と思いました。
- 天気日記の大切さ。雷が鳴る前にどうなったかなどを書いて見返す。
- 大きな災害に対して備えるという意識を持たせる
- 住んでいる場所の降水量の平均値を知る気象情報の見える化について、方法を考えていきたい。
- 降水量を見て、普通か、異常かを考え、身の危険を自ら考えていくことをこれから実践していきたいと思いました。
- 普通がわからなければという視点とても大事だと思いました。感覚で捉えるためにも日常の様子を捉えることと、異常に気付けるようにしたいと思いました。また、子どもたちには、降水量で示されるmm単位の雨量なども分かりやすく伝え子ども自身も情報を基にした感覚が身につけるようにしたいと思いました。
- 学校の近く、自分の住む地域の気象データを取得し、実生活の中での防災に活かしたり、子どもたちの指導や会話に取り入れたりしていきたいと思いました。
- 子どもたちが学校にいる時間帯に、常に気象情報をこまめに入手する係が必要ですね
- 雲の観測アプリを定期的に確認
- 気象に関心をもち、データと感覚の両面を意識して生活すること。
- 普段から自分が使っている気象系アプリを子供のスマホにもインストールして使わせたいと思った
- 定点が鳥羽商船にあるということで、離島とはデータが違う理由が分かった。観測機器？を使って、島のデータを取ってみようと思う。

実践したいこと：安全管理の対象に異常気象の観点を意識する

- これまでは地震、津波の観点が強かったが、今後、危険箇所点検、マップ作りに関しても、もっと広い観点で捉える必要がある。

印象に残ったこと

納得 データ 異常 大事 感じる
わかる 主観 知る 言葉
考える 経験 思う 自分 感覚 普通
雨 すごい もっと 気象 いく 分かる 情報 客観 よく

印象に残ったこと：「普通を知って異常を知る」という気づき

- “普通を知って異常を知る”。この言葉がすごく腑に落ちました。これまでの生活経験で熱や便などで自分たちも似たようなことを考えていたが、そこから防災・減災につながることはできていなかった。根拠に基づき、行動するためにもまずは必要な知識を得ようと思いました。普通は人によって違うことや地域によって違うこともすごく印象に残った。
- 自分で情報を取得しないと情報を得られない、得ようとしても情報過多で何を活用しないといけないかわからないため躓いてしまう、ということです。生活経験、学習事項から風向きが変わって冷たいと感じたら雨が降るなというのは理解しており、行動につなげていました。しかし、その背景に何が起きているのかまでは把握しておらず、背景を考え、そこから何が予測されるかまだ考えることが普通を知って異常を知ることに繋がるのだと学びました。
- 子どもたちに普段の自分と比較させるというのは、総合的な力を身につけさせるためにも、危機管理能力を身につけさせるためにも、非常に有用だと感じました。小学校低学年には厳しいかもしれませんが、日々の生活の中で、自分の言葉で、自分の感覚で書くということが、危機管理能力の向上につながるのだと学びました。
- 普通が分からなければと異常は分からない、という最初の言葉がとても納得感がありました。そのために、気象データに限らず、様々な事象に関して、平常時はどのような状態であるのか、よく把握をしておく必要があると感じました。
- 「『普通』を知って、『異常』を知る」という視点が、判断する上で重要なことに気づかされました。印象的で、分かりやすく、すごく納得できます。

印象に残ったこと：主観（感覚）と客観（データ）の組み合わせ

- もっと専門家と連携した教育を展開するべきであるということ。
- データだけではなく感覚も大事にするということと体にもセンサーがあるということをお聞きし気象と自分をつなげて考えることができました。
- 普通を知って異常を知る。気象を感覚で捉える重要性
- 自分の感覚で地震雲を見つけることがよくあり、今後もこの感覚を大事にしていきたいと思いました。
- 自らの感覚(主観)と測器のデータ(客観)が両輪であること 気象を感覚で捉えるという経験を子どもたちにさせていくことの大切さ
- 主観と客観の両方で天気等を判断することです。主観と客観を結びつけることが大事ということがよくわかりました。自分の祖父母も漁師だったので、小さいころから「〇〇(島の名前)から風が吹いてきたですぐ嵐になる」など聞かされて育ちました。今日の話にあった雷の前に風の向きが変わったことを自分たちの住んでいる土地に基づいて教訓として教えてくれていたんだなと、改めて思いました。
- 経験を主観と客観の両面から分析して教訓にしていき、蓄積すること

印象に残ったこと： 気象庁や外部情報源の活用

- 気象庁などのホームページをチェックする
- 最後の話の中で、もっと外部を頼ってはどうかというように仰られていて、その通りだと強く感じました。緊急時には視野が狭くなり、自分たちでなんとかしなければいけないと思いがちであるので、そのようにならないように、外部の人を頼ることの大切さを学ばせていただきました。第1歩として、気象庁のホームページから情報を得ることを始めたいと思います。

その他（場所・時間・運営など）

もう少し 簡単
誇らしいとてもよいお話 取る レジメ
聞ける 進行 運営 思う ありがとう 市 準備 先生
スムーズ 企画 聞く ご時間 行政

運営についてのコメント

講演内容への満足・感謝

- よかったです。ありがとうございました。
- 市防災危機管理室の澤田さんのコメントのおかげで、今日のお話に対して、考えがまとまった部分があった。ありがとうございました。
- とても興味深い内容で、勉強になりました。講座の企画運営、ありがとうございました。
- お疲れさまでした！

改善提案・ご意見

- 度々 音声途絶えて、とても残念だった。
- オンラインでの参加をさせていただいていますが、音声の状況が前回も良くなく、聞き取れないことが度々ありました。こちらの機器の問題かもしれませんが。
- 途中で定期的に音声途切れていました。前回の講座の際も音声トラブルがあったと思います。可能であれば対処方法をご検討いただきたく。